



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

16 平和と公正を
すべての人に



令和7年度

平和学習広島・長崎派遣プログラム 報告書

※平和基金活用事業

藤沢市

平和の輪をひろげる実行委員会

目 次

はじめに	1
平和学習広島・長崎派遣プログラムについて	2
事前学習 1 日目	3
事前学習 2 日目	4
平和学習広島派遣プログラム行程	5
平和学習長崎派遣プログラム行程	7
派遣者報告 (A 班：広島)	9
派遣者報告 (B 班：広島)	16
派遣者報告 (C 班：広島)	23
派遣者報告 (D 班：長崎)	30
派遣者報告 (E 班：長崎)	37
派遣者報告 (F 班：長崎)	44
派遣者報告 (G 班：長崎)	51
引率者感想	58
記録写真集	59

はじめに

藤沢市は、1982年（昭和57年）に「藤沢市核兵器廃絶平和都市宣言」、1995年（平成7年）に「藤沢市核兵器廃絶平和推進の基本に関する条例」を制定し、核兵器の廃絶、恒久平和の実現に向けて、公募市民で構成する「平和の輪をひろげる実行委員会」と協働で、さまざまな平和事業を進めております。

未来を担う児童・生徒を対象に実施する平和学習事業は、1987年（昭和62年）、広島市に小中学生を派遣する「平和ツアー」として始まりました。2002年（平成14年）からは、訪問先を長崎市とした「平和学習・長崎派遣事業」となり、2011年（平成23年）からは、「親子記者・広島派遣事業」を加え、被爆地を訪問し、被爆の実相や核兵器の恐ろしさ、平和の尊さを学ぶ機会として実施してまいりました。

「平和学習広島・長崎派遣プログラム」として、参加者が主体的に被爆者をはじめ継承に取り組む様々な人々から話を聞き、学び、知ったことを伝える体験型プログラムとして、広島・長崎に42人の青少年を派遣しました。

派遣者のみなさんは、広島・長崎への派遣を通じて、多くのことを学んできたことと思います。被爆者をはじめ、多くの戦争体験者が高齢化している現状を鑑みると、私たちは知るだけでなく、知ったことをより多くの人に伝えていくことが重要だと感じております。

今後も、この地球上からすべての核兵器をなくし、子どもたちの笑顔があふれる安心で平和な世界の実現に向け、市民の皆様とともに「平和の輪」をひろげる取組を行ってまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。



藤沢市長 鈴木恒夫

平和学習広島・長崎派遣プログラムについて

令和7年度の平和学習広島・長崎派遣プログラムでは、広島に18人、長崎に24人の合計42人の青少年派遣を実施しました。

被爆地での学びをより深めるため、派遣前に2日間の日程で、事前学習を実施し、原爆の基礎や被害の実態等を学習したほか、被爆地を訪れ、自ら見て、感じる大切さを改めて考える機会としました。

広島派遣については、原爆の実相を学ぶとともに、広島市立大学平和学習サークル「S2」と事前打合せを行いながら、広島市での見学行程を検討していきましました。さらに、被爆体験講話、被爆電車の乗車体験等を実施しました。

長崎派遣については、長崎市が主催する青少年ピースフォーラムのプログラムに参加しました。全国の青少年との交流や意見交換を通じて被爆の実相を学びました。また、平和案内人による被爆遺構を見学するフィールドワークや、被爆体験講話、ワークショップを行いました。その後、戦後80年特別行程として、福岡県北九州市を訪れ、平和のまちミュージアムの見学及び現地の平和活動団体の「北九州市ピースフィールドクラブ」との交流を実施しました。

派遣後については、8月31日（日）に「平和学習広島・長崎派遣プログラム報告会」として各班が学んできたことを発表するとともに、11月18日（火）から24日（月）までの期間に、「平和学習広島・長崎派遣プログラム報告展」として、派遣者報告を展示しました。

○ 藤沢市核兵器廃絶平和都市宣言

昭和57年6月22日

告示第29号

わが国は、世界で唯一の核被爆国であり、核兵器廃絶と恒久平和の実現は全国民共通の願いである。

しかし、すでに地球上には多くの核兵器が貯えられ、人類の生存に深刻な脅威を与えている。

藤沢市は、日本国憲法の精神に基づく国の平和と安全こそが、地方自治の根本的条件であることにかんがみ、非核三原則が完全に実施されることを願い、核兵器の廃絶と軍縮を全世界に訴え、この人類共通の大義に向かつて不断の努力を続ける核兵器廃絶の平和都市であることを宣言する。

参加者・保護者説明会

● 講演

「広島・長崎の被爆者との 対話から学んだこと」

多摩大学グローバルスタディーズ学部

准教授 桐谷 多恵子 さん



● 令和6年度参加者の声

広島派遣参加者 及川 絢奈さん

長崎派遣参加者 佐藤 千佳さん、溝口 悠路さん



事前学習 1 日目

● 「原爆の基礎知識について」

平和の輪をひろげる実行委員会

持田 早苗委員、益子 悦子委員



● 戦争体験アーカイブ動画視聴

● 平和メッセージの作成

平和の輪をひろげる実行委員会

益子 悦子委員

● 班別ミーティング



事前学習 2 日目

● 藤沢戦争史跡関連動画視聴と班別ミーティング

広島派遣

- ・ 広島市立大学平和活動サークル S 2 と班別自由学習のコース検討（オンライン）

長崎派遣

- ・ 班別学習フィールドワークの検討



● 班別学習目標発表



● 「平和の種を集め未来を共に創る」

長澤 パティ 明寿さん（政策研究大学院大学）



平和学習広島派遣プログラム行程

2025年(令和7年)8月5日(火)～7日(木)

1 日目

8月5日(火)

- ・平和メッセージ(原爆の子の像)
- ・原爆ドーム(平和記念公園)、平和記念資料館見学
- ・被爆体験講話「三度許すまじ原爆を」(講話者:梶矢 文昭さん)

新横浜駅 =  = 広島駅 =  = 原爆ドーム前 =  = 平和記念公園 =  = ホテル会議室 = ホテル(泊)

2 日目

8月6日(水)

- ・広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式
 - ・広島市立大学平和活動サークル「S2」案内になるフィールドワーク
- ※班別自由学習

ホテル =  = 平和記念式典 =  = ホテル =  = フィールドワーク =  = 原爆ドーム前(元安川とうろう流し) =  = ホテル(泊)

3 日目

8月7日(木)

- ・講演「原爆と被爆電車」(講師:加藤 一孝さん)
- ・原爆ドーム見学
- ・被爆電車乗車体験

ホテル =  = 広島国際会議場 =  = 原爆ドーム前 =  = 広島駅 =  = 新横浜駅

講師紹介

梶矢 文昭さん：1939年（昭和14年）広島市生まれ。小学1年生のときに広島駅近くで被爆。1962年（昭和37年）から広島市で小学校教諭や校長を務める。2001年（平成13年）に「ヒロシマを語り継ぐ教師の会」を発足し、事務局長に就く。令和に入ってから、財団法人広島平和文化センターの被爆体験証言者として「三度許すまじ」を伝える活動を行っている。

加藤 一孝さん：1949年（昭和24年）広島生まれ。高校教員を経て1980年（昭和55年）広島市こども文化科学館。元館長。現在、日本路面電車同好会中国支部代表、広島国際学院大学評議員、比治山大学講師等。

◎平和学習広島派遣プログラム 平和メッセージ文

広島平和メッセージ 2025年（令和7年）8月5日

A 班

過去を学び、互いを尊重し、笑顔のあふれる世界にしよう。

B 班

戦争がないだけでなく差別や抑圧がなくお互いを尊重しあえる関係を目指します。

C 班

後世に戦争の悲惨さを伝える為に今私たちができることを学び、行動し互いを尊重し合える世界になりますように。

平和学習長崎派遣プログラム行程

2025年（令和7年）8月7日（木）～10日（日）

1 日目 8月7日（木）

- ・平和案内人との原爆資料館フィールドワーク
- ・平和メッセージ（原爆落下中心地公園）の読み上げ・献花

藤沢市役所 =  = 羽田空港 =  = 長崎空港 =  = 原爆資料館・
原爆落下中心地公園 =  = ホテル（泊）

2 日目 8月8日（金）

- ・班別学習フィールドワーク ※班別自由行動
- ・青少年ピースフォーラム（被爆体験講話、ワーク、交流会等）
被爆体験講話（講師：三瀬 清一郎さん）

ホテル = 班別学習 = 原爆資料館（青少年ピースフォーラム）
=  = ホテル（泊）

3 日目 8月9日（土）

- ・被爆80周年長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典
- ・青少年ピースフォーラム（意見交換）

ホテル =  = 原爆落下中心地公園 = 平和祈念式典 =
出島メッセ（青少年ピースフォーラム） =  = ホテル（泊）

4 日目 8月10日（日）

- ・北九州市平和のまちミュージアム見学
- ・北九州市ピースフィールドクラブとのピースな交流

ホテル =  = 北九州市平和のまちミュージアム =  = 長崎空港
=  = 羽田空港 =  = 藤沢市役所

講師紹介

三瀬 清一郎さん：国民学校 5 年生 (10 歳)、爆心地から 3.6km の屋内で被爆。家族 8 名は無事だったが、家の中は惨憺たる有様、後片付けに追われた。学校では、救護が間に合わず、次々と亡くなり、校庭で焼かれる様子を嫌というほど見せられた。

◎平和学習長崎派遣プログラム 平和メッセージ文

長崎平和メッセージ 2025 年 (令和 7 年) 8 月 7 日

D 班

長崎で学んだこと、平和の大切さを世界に届ける
思いやりの気持ちを持ち、当たり前の日常を大切にしよう

E 班

笑顔で心の国境を越えて過去と未来を平和で繋げよう

F 班

原爆で人々にとって戦争がどのようなものになったか、本当の平和とは一体なにかを考え、より良い未来を作れるように。

G 班

おいしいものをお腹いっぱい食べ、安心してぐっすり眠ることが出来る。そんな平和な日々を世界中のみんなが過ごせるように戦争を語りついでいこう